

霧島屋久国立公園 屋久島縄文杉登山のあり方検討報告書 (概要)  
平成4年3月  
環境庁自然保護局阿蘇くじゅう国立公園管理事務所

## 1 検討の目的

近年、屋久島への登山利用者が急増するに伴い、特に、利用者が集中する「縄文杉登山ルート」沿線では、登山道の荒廃や屋久杉の根や幹の損傷が問題となっている。

縄文杉登山ルートの問題点を整理し、今後の登山道の整備、管理、運営に反映させるため、公園利用における縄文杉の位置付け及び望ましい縄文杉登山のあり方等について総合的に検討するもの。

## 2 縄文杉登山ルートにおける問題点の整理

- ① 利用者の増大化による「公園利用マナーの低下」
- ② 利用年齢層の多様化、登山未経験者等による「事故や遭難の危険増大」
- ③ 利用者の集中による「駐車場やトイレの不足等」
- ④ 多量の利用者の通行による「登山道の荒廃、沿線の大杉の疲弊等」

## 3 縄文杉登山の現状

- ・ 縄文杉登山は、宮之浦岳との縦走ルートと2つの日帰りルートに大別。主体は日帰り登山で、森林軌道敷がルートの3/4を占めるのが特徴
- ・ 白谷雲水峡からよりも、荒川登山口からの日帰りルートの利用者が多い。
- ・ 大株歩道上では、大王杉、夫婦杉、翁杉、ウィルソン株など名のある大杉、大株が並び、これらを鑑賞しながら縄文杉へと至る。
- ・ 小杉谷の学校グラウンド跡は、ベースキャンプ等に用いられる。
- ・ 縄文杉へは7、8月が登山者のピークで、年間では最低でも1万人以上と推定。登山者の特徴として、中高年者、団体登山、登山未経験者が増加。
- ・ 地元の登山ガイド付きで、縄文杉登山を行う団体、個人も増加傾向。
- ・ 縄文杉登山ルート等の整備状況
  - ① 昭和58年度 鹿児島県(国庫補助事業)【自然公園等施設整備事業】  
道に迷わないための標識類の整備。路面浸食防止のための土留柵の設置。
  - ② 平成2年度 鹿児島県(国庫補助事業)【自然公園等施設整備事業】  
軌道敷への板張り(小杉谷橋～大株歩道入口)。迷いやすい箇所への標識類の追加。
  - ③ 昭和59年～61年度 鹿児島県(国庫補助事業)【特殊植物等保全事業】  
縄文杉根元周辺の土嚢、土埋木、転石等による埋め戻し。植生復元のための植栽。植生復元区域への立入防止柵、注意標識類の設置。

## 4 縄文杉登山の望ましいあり方

### (1) 基本理念

- ① 縄文杉登山は、縄文杉のもつ偉大性、神秘性、縄文杉が発するエネルギーとの対話であること。
  - ② 縄文杉は、屋久島の高い自然性の革新をなす屋久杉の森の子どもであり、屋久島の象徴として存在していること。
- 上記2つの屋久杉が持つ意義を踏まえ、縄文杉を含めた屋久島全体の自然についての理解と認識を深めることを基本理念とすべき。

### (2) 利用者の受け入れについての基本的な考え方

当面、縄文杉を見たいという人を制限するのではなく、屋久島の自然を正しく理解し、正しい登山利用のあり方を認識するよう誘導を図ることが肝要。

### (3) 登山道整備の基本的な考え方

#### ① 自然との触れ合いの喜びを知る登山の推進

縄文杉と出会う喜びや自然への理解を深めたり、利用者数を抑制する効果があることから、縄文杉へのアプローチの長さを維持することが重要であり、新たなルートの設定等は今後とも避けるべき。アプローチの長さを生かし、解説、ガイドシステムの充実に努め、自然との触れ合いの喜びを知る登山を推進。

#### ② 自然に優しい登山道の整備

利用者は、登山を通して周囲の自然環境に影響を与えていることをよく認識すべき。登山道の崩壊を防止し、根系や植生の保護を図るため、登山道の路体の整備、植生保護対策等を図り、あわせて利用者への啓発等にも努める。

## 5 縄文杉登山ルート of 整備方針

### (1) ルート設定

当面現状ルートを原則とし、バイパス等の新設は行わず、大杉を保護するため路体の損傷が激しく修復が困難な箇所については部分的なルート変更を検討。

### (2) ルートの整備水準

周辺の自然環境、利用の難易度及び利用の実態にみあった一種のゾーニング的な考え方に配慮しつつ、施設の整備水準を定め、あわせて利用のコントロールを図る。

#### ① 荒川登山口、白谷雲水峡～ウィルソン株

軽装備で山の知識がない一般利用者でも安全かつ快適に利用できるよう整備

#### ② ウィルソン株～縄文杉

登山装備をした健脚の利用者を対象とした登山道として、特に自然環境の保全に重点をおいて整備

### (3) 登山道の整備方針

① 設計にあたっては、公園利用者が屋久島のすばらしい自然風景に親しみ自然を理解し、自然についての知識を得るという計画目的に適合した路線の設定、構造・規模及び形態とし、整備によって自然環境を著しく損なわぬよう留意。

② 登山道にテーマを持たせ、興味対象の選定や解説を積極的に行い、野生体験を増進

③ 案内標識の整理・統一、ガイド地図の整備等により、安全かつ快適な利用に配慮

④ 現状の路面、路体を活かすことを基本。

⑤ 整備スケジュールは、危険箇所、緊急整備の必要性の高いところに重点

⑥ 整備の実施は、資材運搬、資材確保、人手確保等屋久島の特殊条件に配慮

## 6 登山道整備についての具体的方策

今後の事業の実施に当っては、実施計画、事業主体、実施時期等について関係機関において、別途、検討・調整が必要。

### (1) 登山道関連施設の整備

#### ① 森林軌道敷

枕木の板張りによる歩きにくさの解消

大橋梁の安全確保のために歩道専用部分の設置を検討

ルートに変化を持たせるよう展望所、自然解説案内板の設置

- ② 大株歩道  
崩壊が進んでいる区間や、崩壊が進む恐れのある区間等の従来工法の他、石積み等により登山者が直接土や根を踏まないようにして自然環境を保全
- ③ 標識類の統一的な整理及び整備  
乱立した既存の標識を整理し、総合案内板、解説版等を統一的に整備
- ④ 入口施設の整備  
白谷雲水峡は駐車場及びトイレが整備されており問題ないが、荒川登山口については、作業ヤードと公園利用の区分を図り、駐車スペース、トイレ、緊急連絡施設、総合案内施設等の必要な施設を整備
- ⑤ 小杉谷の整備  
屋久島全体の公園利用を考える上でも重要な場所であることを踏まえ、総合的な観点から整備計画を別途検討

## (2) 大杉・大株の保護

疲弊防止のための保護施設の整備を図る。縄文杉については、林床植生が完全に復元するまでは、柵を高くする等、立ち入り制限の徹底を図り、客土等により植生の復元を促進する。プラットホームを設置し、直接登山者が縄文杉の根を踏まないようにするなどが考えられる。ウィルソン株については、利用者の行為に対して注意を喚起し、苔むした状態へ復元し、保全を図る。大王杉については大王杉の下側を廻るようにルートを変更し、根本に近づかないように措置を講じる。

## 7 快適利用の推進

### (1) 利用方法の普及啓発

- ・パンフレット等による啓発と環境文化村中核施設等の活用によるインフォメーション機能の強化

### (2) 自然に優しい登山の推進

- ・ゴミの持ち帰り、植物採取や損傷等基本的モラルの徹底
- ・スパイク等金具付きの履き物の抑制について啓発

### (3) 自然認識を深める

- ・セルフガイドシステムの検討
- ・小杉谷を中心とした有人ガイドシステムの展開を検討

## 8 登山道の維持管理

### (1) 管理体制の確立

- ・関係機関・団体からなる登山利用協議会等の設置について検討

### (2) 巡視・清掃計画

- ・関係機関・団体による定期的な巡視・清掃の実施

## 9 おわりに

今後の緊急課題

### (1) 縄文杉及び大王杉の根を保護するための施設の早急な整備

ウィルソン株への立ち登りの禁止措置の検討

### (2) 登山道の荒廃が著しいウィルソン株から大王杉間の植生保護・安全確保の観点からの修復

### (3) 標識の整理統一（乱立防止）

## 検討委員

座長

鹿児島大学教養部長  
上屋久町林地活用計画推進委員会  
屋久島ガイド協会  
大福測量技術コンサルタント(株)代表取締役  
下屋久営林署長  
鹿児島県保健環境部環境政策課長  
鹿児島県商工労働部観光課長  
上屋久町長  
屋久町長

田川 日出夫  
柴 鐵 生  
小原 比呂志  
福田 光 一  
田平 広 実  
小野寺 浩  
和田 正 道  
荒木 健次郎  
日高 十七郎

事務局

阿蘇くじゅう国立公園管理事務所長  
阿蘇くじゅう国立公園管理事務所保護科長  
霧島屋久国立公園屋久島管理官

赤土 攻  
西塔 紀 夫  
市川 聡